

#### IV. 特記事項

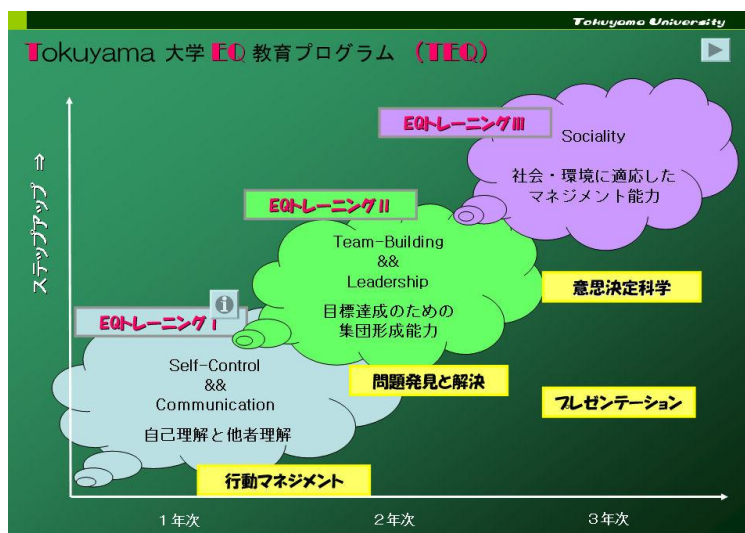
本編で再三強調されたように、本学の「教育の目標」は『総合的な人間力』と『現実的な知識と手法』の涵養にある。この目標に向かい、近年本学が力を入れている「EQ 教育」（およびそれに関連した文部科学省の委託事業）と「ICT 基礎教育」（または関連のサイバーキャンパス構築）に関して、ここに付記しておく。また最後に、地域によって設立され、地域と共に成長してきた本学にとっての最重要課題ともいえる「地域との連携」にまつわる最近の活動についても付加しておく。

##### 1. 「徳山大学 EQ 教育プログラム」

**1-1 概要：** 「キャリア教育」の中心は一般にキャリア設計支援にあると考えられている。しかし、フリータやニートの増大といった昨今の社会情勢を見ると、早期より学生の意識を啓発し、将来設計へのモチベーションを高める教育が重要かつ不可欠と考えられる。そこで本学では、学生各自が大学生活の早期に自己を確立し、自立した社会人に向かって努力しようという自覚を啓発する教育として「EQ (Emotional Quotient:心の知能指数)」に着目し、その育成を柱とする新しい教育プログラムを構築した。平成 19(2007)年度より「正課教育」として全学的に導入した EQ 教育プログラムは、次の3つのステップによって構成されている。第1段階は自己分析と他者理解をテーマとするセルフコントロール&コミュニケーション・プログラム（「EQ トレーニングⅠ」）、第2段階は目標達成のための集団形成能力を養成するチームビルディング&リーダーシップ・プログラム（「EQ トレーニングⅡ」）、第3段階は、実際の社会環境に適応したマネジメント能力を育てるソーシャリティー・プログラム（「EQ トレーニングⅢ」）が中心となる。そしてそれぞれの段階には、これらのトレーニングの理論的背景を学ぶ講義科目、「行動マネジメント」（「行動科学」）や「意思決定科学」、さらに「問題発見と解決」や「プレゼンテーション」などが組み込まれている。この教育システムの内容と全体像を表したものが、次の表と図である。

	内容	目指す能力
EQ トレーニングⅠ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しく自己を認識し制御する能力</li> <li>● 認識した個々人の長所・短所を他者と共有しグループを形成する能力、及びそれを支える コミュニケーション 能力</li> </ul>	セルフコントロール & コミュニケーション
EQ トレーニングⅡ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループで目的を達成するために必要となる自分の役割を認識し実行する能力</li> <li>● グループ全体の協力体制を作り上げる能力</li> </ul>	チームビルディング & リーダーシップ
EQ トレーニングⅢ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実社会のなかで起こりうる様々な環境に対応しながら、他者と共同して成果を挙げていくマネジメント能力</li> </ul>	ソーシャリティー

EQ トレーニングが目指す教育内容



徳山大学 EQ 教育プログラム

**1-2 教科内容:** EQ トレーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲの教科内容を概観するため、以下にそれらのシラバスの抜粋を提示しておく。

EQ トレーニングⅠ	
<b>学習の到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の性格（他者との交流の仕方）を正しく把握し、コントロールすることができる。</li> <li>● コミュニケーションのスキルを体得している。</li> <li>● セルフエスティームをもち、他者と関わることで生産的な効果を上げる集団運営のあり方について理解している。</li> </ul>	
<b>授業計画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>①オリエンテーション（コミュニケーションの始まり「あいさつ」）</li> <li>②講義「EQ とは何？ 何故？」「自己理解とジョハリの窓」</li> <li>③診断「エゴグラム」Ⅰ（交流分析とは？ CP・NP・A・FC・AC の説明、診断の実施）</li> <li>④診断「エゴグラム」Ⅱ（診断結果の考察とふりかえり）</li> <li>⑤ビタミンTを利用した「アイスブレイクⅠ」 「自分を語る」（名前、所属、ニックネーム、生まれ、などを中心に）</li> <li>⑥ビタミンTを利用した「アイスブレイクⅡ」 「自分を語る」（エゴグラムの結果、趣味、特技、生まれ、などを中心に） 「仲間を知る」「仲間を作る」</li> <li>⑦講義「チームビルディング、目的を達成するための協働」</li> <li>⑧実習「オリエンタリングⅠ」</li> <li>⑨実習「オリエンタリングⅡ」</li> <li>⑩講義「セルフエスティーム」とミニドラマ「セルフエスティーム」の制作</li> <li>⑪ミニドラマ「セルフエスティーム」の制作とグループ内発表</li> <li>⑫ミニドラマ「セルフエスティーム」の全体発表とキャンプファイヤー</li> <li>⑬ディスカッション「大学生活への抱負」</li> <li>⑭EQ 診断</li> <li>⑮全体のふりかえり、レポートの作成</li> </ol>	

EQ トレーニングⅡ	
学習の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● チームビルディングとリーダーシップについての基礎理論を学習する。</li> <li>● 集団づくりにリーダーとして参画することによってリーダーシップを実践的に学ぶ。</li> </ul>	
授業計画	
A コース	B コース
①事前研修 (学内) オリエンテーション ②事前研修 (学外) 運営計画 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮総括とふり返り (レポート作成)	①オリエンテーション ②リーダーシップのコツとポイント ③チームワーク実習Ⅰ ④チームワークの考え方 ⑤人間関係の心理的距離感 ⑥チームワーク実習Ⅱ ⑦リーダーシップの発揮とは ⑧リーダーシップは分かち合うもの ⑨ケース討議について ⑩ケース討議 (ディスカッション) ⑪EQの3本柱とコミュニケーション ⑫アンケート診断 ⑬ビデオ学習 ⑭チームワーク実習Ⅲ ⑮総括とふり返り (レポート作成)
「EQ トレーニングⅠ」 [2泊3日] (国立山口徳地青少年自然の家)	

EQ トレーニングⅢ	
学習の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会人として生きていくための基本的姿勢と人間力を培う。</li> </ul>	
授業計画	
①オリエンテーション「学校生活から社会人へ」 ②ケーススタディーⅠ「初出勤の日に…」～〈服装と態度について〉 ③ケーススタディーⅡ「挨拶の仕方…」～〈お辞儀の仕方、言葉使い、態度について〉 講義「社会人としてのマナー」 ④ロールプレイⅠ「職場での服装と姿勢、上司への態度、先輩への態度、組織人としての心構え」 ⑤発声練習Ⅰ、今日一日に学んだこと (今日のレポートと明日へ向けての宿題) ⑥発声練習Ⅱ、講義「責任と権限・仕事の進め方」 ⑦ケーススタディーⅢ「言葉使い」～〈上司への言葉使い、顧客への言葉使い〉 ケース討議と発表、コメント ⑧ロールプレイⅡ「命令の受け方・報告の仕方」 ⑨ロールプレイⅢ「電話の受け方・伝言の仕方」、今日一日に学んだこと (今日のレポートと明日へ向けての宿題) ⑩講義「事業の社会的責任と顧客に対する考え方」「自分はだれに何をサービスするのか？」 ⑪ケーススタディーⅣ「歓迎会にて…」〈先輩との人間関係〉 ⑫ケーススタディーⅤ「顧客と上司の板ばさみ…」〈葛藤とその対応について〉 ⑬講義「社会人としての人間力」 ⑭EQ質問紙による自己診断、全体のふりかえり ⑮総括レポートの作成、ポジティブシャワーと決意表明	

**1-3 ビタミンTと中高大連携：** EQトレーニングIで利用しているコミュニケーションツールに、NPO 法人学習環境デザイン工房が開発した「ビタミン T」と呼ばれる Tシャツがある。48枚が一组で、表側は自由にデザインされ、裏側は規則的なパターンに塗り分けられている。襟に2色、左袖、左背、右背、右袖に各4色が配色され、48通りのパターンからなる。このTシャツを利用して、2~24人のグルーピングを自由に操ることができる。次々に変わっていくグループの中で、自己紹介やゲームを進めるうちに、様々なコミュニケーションが生まれてくる。「見知らぬ人とコミュニケーションを始めることには気恥ずかしさが伴いますが、ビタミンTという外的なものにコミュニケーションのきっかけが託され、自然と会話を始めることができるようになるのです」が、開発者の一人である苅宿俊文教授（青山学院大学）の言葉だ。

しかし、コミュニケーションを深めていく段階では、リーダー（ファシリテータ）の能力が大変重要となる。そこで導入当初は、専門家の派遣を得て実施していた。しかし一度体験した学生に訓練を施すことによって、2年目には、彼らがリーダーとして、新入生を指導することができるようになる。また回を重ねるたびに、そのスキルが益々向上していくのが見ていて頼もしい。

最近では、オープンキャンパスの模擬講義で高校生を対象に実施した。周南市青年会議所主催「こどもチャレンジショップ」（小学生43人対象）のアイスブレイクを、ビタミンTのリーダー学生グループが受け持ち好評を博した。また、徳山商工高等学校からも出前講義の依頼を得て、商業科と工業科の生徒200人のコミュニケーションを演出するまでになっている。

こういった試みは、子どもたちや中高校生の教育に有効だけでなく、そこから得られるフィードバックを通して指導学生自身が大きく成長する、高い教育効果を備えている。「地域と連携して行う教育」の一つの方法として、今後、大変重要な意義をもつてくと考えている。



ビタミンTの表と裏

## 2. 「EQ 教育を柱とする若者のチャレンジ支援プログラム」

文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進委託事業」  
(平成 19(2007)年度 ～ 平成 21(2009)年度)

**2-1 事業の概要：** 大学・短期大学等の高等教育機関を卒業しながら就職せず、もしくは就職しても離職して定職についていない若者の、学び直しによる再出発を支援する。このような若者に共通する特徴の一つは、組織の中で他者と協調しながら働き、与えられた職務を積極的かつ誠実に継続する「人間力」の欠如にある。本事業では、このような若者を対象として

『EQ 教育』を柱として「人間力」を育成し

社会への復帰を支援するプログラムを、以下の3ステップから構成し実施した。

### 第1ステップ：EQ 基礎プログラムと自立支援塾（フィールドワーク）による労働体験

【総学習時間】 105 時間  
【実施形態】 合宿を交えた集中実施



EQ I ; 2泊3日、EQ II ; 3日、自立支援塾 I ; 4泊5日、自立支援塾 II、2泊3日

**EQ トレーニング：**自己認識と他者理解を深め、コミュニケーション能力を身につける (EQ I)。グループの目標を理解し、組織の一員としての役割を果たす能力（リーダーシップ）の育成を目指す (EQ II)。下記の自立支援塾の労働体験と連動させることにより、トレーニング実習をより効果的なものとする。



**自立支援塾（フィールドワーク）：**農山村活性化事業での共同作業の体験を通して「集団の中で労働することの喜び」と「自己の発見」を促す。グループ作業において自分の役割を自覚し、それを果たす楽しさを体験することが集団形成に対する意識の醸成につながっていく。

協力：

NPO 法人「ふるさと里山救援隊」（山口県周防大島）  
NPO 法人「ナベツル環境保護協会」（山口県周南市八代）  
農業組合法人「ファーム鶴の里」（山口県周南市八代）



## 第2ステップ：学部講義への参加と資格取得へのチャレンジ

【総学習時間】約 270 時間

【実施形態】 特設講義＋学内正課授業への参加

**特設講義・学部講義への参加**：特設講義への参加によって人間力の更なる向上を目指すとともに、各種正課講義の受講をとおして、IT 基礎力や実践的な日本語能力などの基礎的教養、および専門知識を身に付ける。

特設講義：EQ カウンセリング、キャリアカウンセリング

正課講義：EQ 教育系（行動マネジメント、問題発見と解決、プレゼンテーション）

..... 4 単位

総合系（人間力講座、就職講座）..... 4 単位

情報系（情報処理、応用情報処理 A）..... 4 単位

専門系（現代経済・ビジネス戦略・スポマネ・知財開発・福祉の諸分野から選択）

..... 8 単位程度

**資格取得**：マイクロソフト社の認定資格 MCAS または MOS（ワード、エクセル）の資格取得講座（集中）。

## 第3ステップ：就業体験、およびその体験をテーマとした EQ 育成最終プログラム

【総学習時間】約 48 時間程度（就業体験は塾生によって異なるため不定）

【実施形態】 社会活動＋特設集中講義

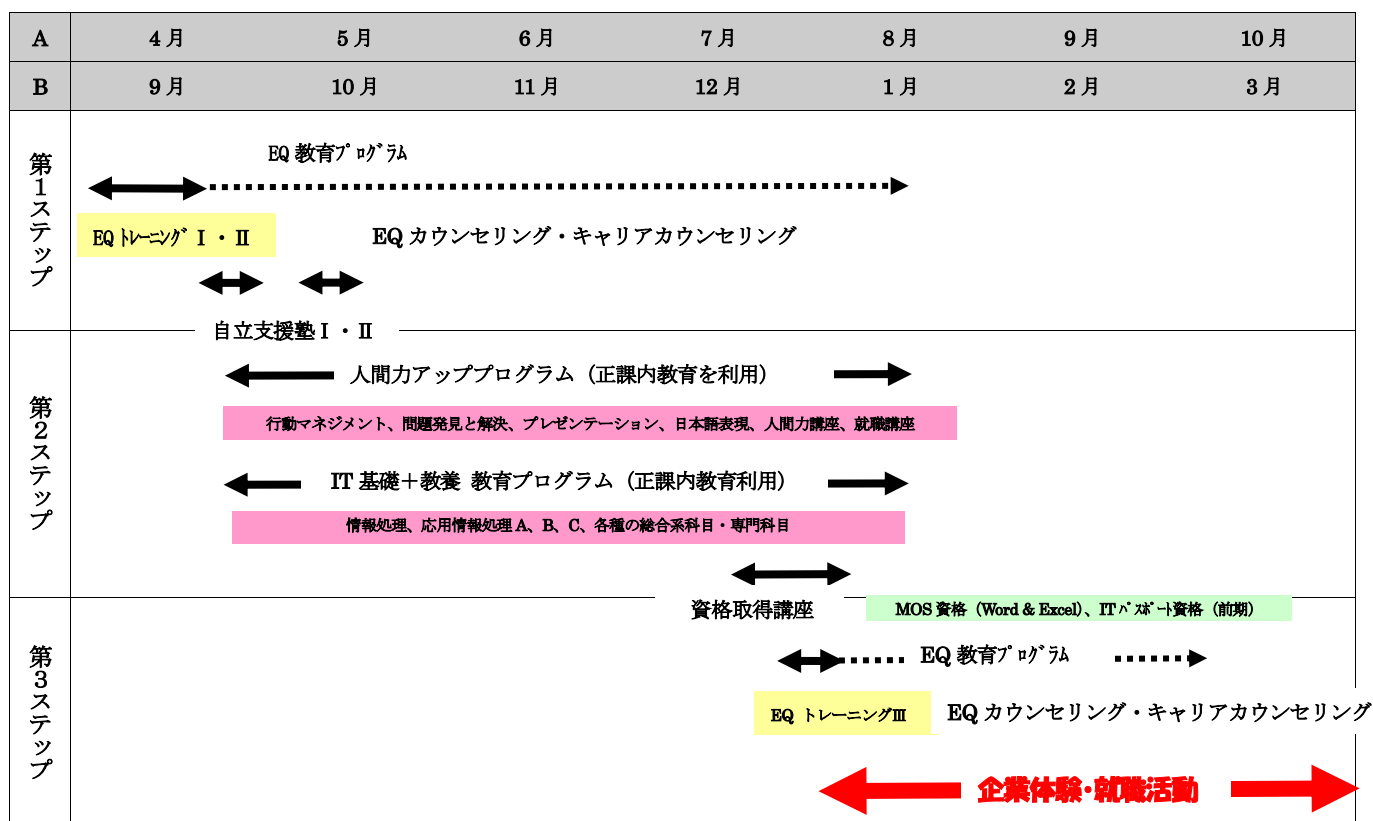
**就業体験**：複数の就業体験を持てるよう指導。

**EQ トレーニング**：就業体験をテーマとする EQ 教育の最終段階プログラム（EQⅢ）によって、社会への適応能力を高める。



プログラムは半年間で終了する。前期（プログラム A）と後期（プログラム B）の、年間2回の割で、2年半の間実施した。すなわち全プロジェクトのなかで、5回実施したことになる。1年のプログラムの流れの概略を、下の図に示す。

プログラム A（前期）・B（後期）のタイムスケジュール概要



**2-2 EQ 診断 (EQ 力の評価) :** 下の図に示すような評価アンケート『EQ 質問紙』を開発・作成し、「自己評価」と「(EQ アドバイザによる) 他者評価」を、プログラムの開始前と終了後の2回にわたって実施した。結果を、下のような得点表に集計してプロットし、本人のキャリア形成 (就職・進路) と比較すると、次ページに示すような大変興味ある結果が得られた。

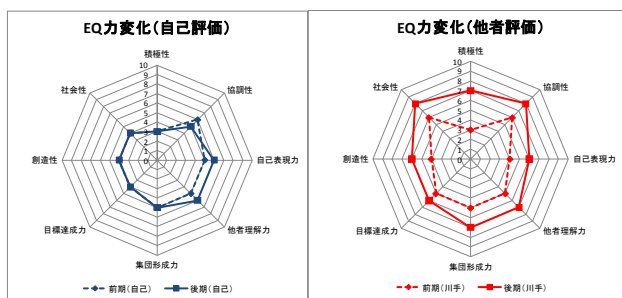
**EQ 質問紙**

欲求の質問							
同意しない			同意する				
1	2	3	4	5	6		
1101						私は積極的な気持ちで、物事に取り組みたい。	
1301						私は自分がどのような人間かをより深く理解したい。	
1501						私は集団の中で自分がとるべき役割を自分で見つけて行動したい。	
1601						私は前例やルールにこだわらず、新しいアイデアを提案したい。	
2102						私は、多少の危険や不安がある場合にも、楽観的な気持ちで物事に取り組みたい。	
2302						私は自分の意見を言う時に、分かりやすく表現したい。	
2502						私は集団内で意見の対立が起きた時に、十分に議論し、お互いが理解し合えるように働きかけたい。	
2602						物事に取り組む時に、柔軟な発想でたくさんの方のアイデアを考えたい。	
....	.....					.....	
....	.....					.....	

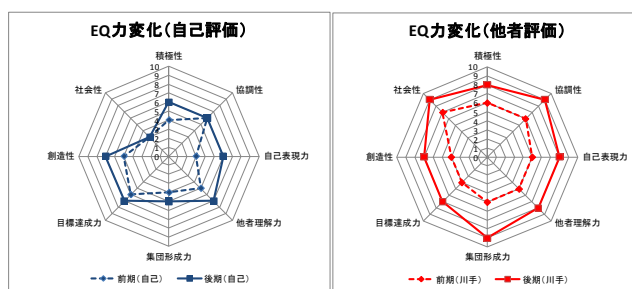
項目	観点	初期	後期
1. 積極性	①前向きな姿勢(スタンス)で物事に取り組める	3	4
	②自分から進んで他のメンバーに関わる	2	5
	小計⇒	5	9
2. 協調性	③他のメンバーと一体になって行動できる	4	3
	④自分勝手な行動をしないで、関係者と相談しながら物事を進める	3	4
	小計⇒	7	7
3. 自己表現力	⑤自分の意見や気持ちを的確に表現できる	5	3
	⑥自分の意見や気持ちを他の人に理解してもらおうと努力する	2	4
	小計⇒	7	7
4. 他者理解力	⑦他の人の意図・気持ちを的確に感受する	3	3
	⑧自分と異なる意見も受容してその人の力を活かす	2	3
	小計⇒	5	6
5. 集団形成力	⑨チーム活動の中で自分の持ち味を活かして役割をとる	3	4
	⑩チーム活動のとき他のメンバーの持ち味を活かす	4	4
	小計⇒	7	8
6. 目標達成力	⑪目標を共有するためにメンバーに働きかける	3	5
	⑫チーム活動に障害が起こったとき、問題を明確化し解決できる	5	3
	小計⇒	8	8
7. 創造性	⑬安易な気持ちに流されないで自分のアイデアを提案できる	2	2
	⑭自分と異なった意見や考えの人とも話し合い創造的な結論を出す	2	3
	小計⇒	4	5
8. 社会性	⑮社会生活をしていく上で必要なマナーを身につけている	2	4
	⑯社会人として責任を持ち道徳的・倫理的にシッカリしている	3	5
	小計⇒	5	9
総合計⇒		48	59

**集計表**

自己評価と他者評価が大きく異なる例（就職せず、自分に合った就職を求め続けたり、別の教育機関で勉強を続ける傾向が強い）

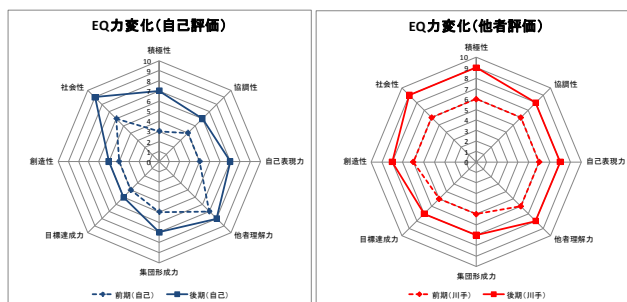


A君の例

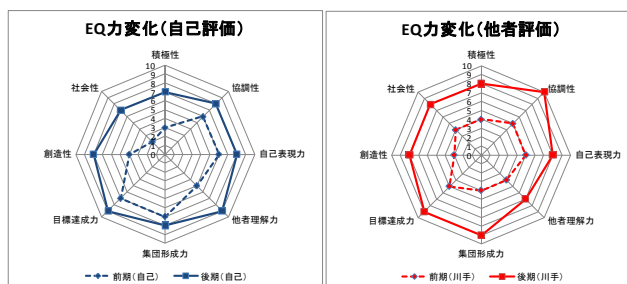


Bさんの例

自己評価と他者評価がほぼ一致し、ともにEQ力の伸びを感じている例（職を得て、社会人として再出発できる傾向が強い）



C君の例



Dさんの例

**2-3 達成度評価と「修了証」「履修証明書」:** 本プロジェクト受講者に対して、第2ステップ終了時に、以下の要領で達成度評価を行った。

「達成度評価委員会」: プロジェクト推進委員会のメンバー (6人)、EQアドバイザー、キャリア・アドバイザーの総計8人で構成

「面接評価委員会」 : EQアドバイザーおよびキャリア・アドバイザー、外部評価委員2人で構成。

外部評価委員の例; 東洋証券(株)徳山支店長、エルクホームズ(株)総務部人事課長、サマンサジャパン(株)総務部長 など

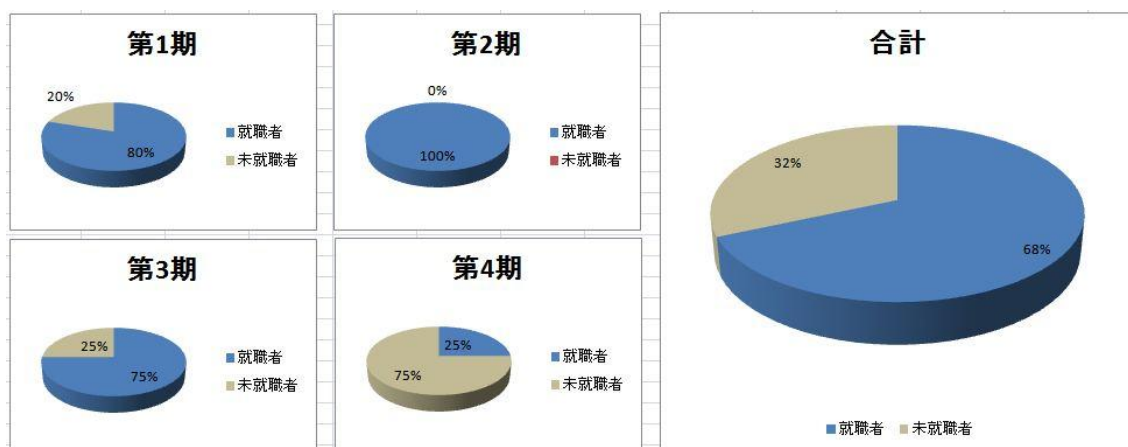
評価①: 第1ステップの評価 (EQアドバイザー)、及び第2ステップの評価 (受講科目の教員、EQアドバイザー、キャリア・アドバイザーを含む)

評価②: 第2ステップ終了時に実施する「面接試験」(面接評価委員会) の評価

- (1) 達成度評価委員会は、評価①、②に基づく総合評価を実施、本プログラム(第2ステップ)修了生として地元各社への就業体験(インターンシップ)派遣できるかどうかについての最終判定を行う。合格とならなかった者は、第3ステップへ進むことはできるが、就業体験(インターンシップ)先企業の斡旋を受けるには、再度面接を受け合格する必要がある
- (2) (1)の評価で合格となり、第3ステップを含む全課程を終えた者には「修了証」と「履修証明書」を授与
- (3) 「修了」に至らなかった場合も、「EQトレーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「EQカウンセリング」「キャリアカウンセリング」の5科目を履修し、合格の評価を得た者には「履修証明書」を授与

#### 2-4 就職状況(第4期までの学生)

就職先の例: 日本語教員(韓国高校)、(株)サマンサジャパン、(株)ムネスエ事務文具販売、(株)広島警備保障、(株)今治造船 など



受講生の就職状況

## 2-5 卒業生の感想文抜粋

・・・・・・毎回EQやビジネスマナー、果ては日本経済の話と様々な話題が出て勉強になりました。実際に企業で活躍されてきた先生方のお話は体験と実感に基づいており、とてもためになりました。また、EQに関しては若チャレ以外の経済学部での授業でも、組織戦略における有用性について具体的な事例とともに学ぶことができ大変有意義でした。EQ＝心の知能指数、つまりコミュニケーション能力に類するものという抽象的なものが、その授業を受けることで、具体的な企業活動の成果として結実していくことに確信を持てるようになりました。

カリキュラム自体は終わっても、この受講が最終的に自分にとってどのようなものであったのかがわかるのはもっと先になるでしょう。「若者チャレンジ」という名称になっていますが、自分が果たしてなにかにチャレンジしたと言えるのか。応援して下さった先生方や大学のスタッフの方々に、笑顔で成果を報告できるよう、他の誰のものでもない自分のチャレンジを続けていきたいと考えます。

注：この塾生は来年度、本学が提携する韓国の高校へ日本語教師として赴任することを決め、新たなチャレンジを展開しようとしている。

### 3. 徳山大学サイバーキャンパス構想

本学では、平成 22(2010)年度から、ICT 技術をフルに活用した新たな教育改革と学生のキャリア形成支援に取り組んでいる。企画の概要は以下のとおりである：

(1) 新入生全員に対し、軽量のモバイル・ノートパソコン(PC)の購入補助を実施する。PCは小型(12インチ程度)軽量(約1.5Kg程度)で常時の学内携行に耐え、十分なメモリとHDの構成をもち、最新OS Windows 7にMS-Officeなどのソフトを完備、在学4年間のウィルス対策、障害対策が施されたものを選定した。

(2) 学内LANを再整備し、2・3号館、5・6号館、10・11号館の各教室をはじめ、食堂や学生ラウンジなど、「学内各所での無線LANネットワーク接続」を可能とした。そしてこれを利用し情報関連講義はもとより、その他の一般講義においても、暫時このノートPCの利用を促進する活動を、FD推進委員会の協力のもと、押し進めていく。

(3) 学内ネットワークに

- 学習管理とe-ラーニングの手法を授業補助に活用するための「学習管理システム：LMS」(Learning Management System)を導入するとともに、
- 学生各自の単位取得状況に加え、EQ診断の結果や、キャリア教育から就職に至るまでの学生のキャリア形成過程の詳細を記録するデータベースシステム「CASK (CAreer Student Karte)」(「キャスク」と呼ぶ)を構築する。

LMSによって教育改革の新たなツールが提供され、またCASKによって、ゼミ(セミナー)等における教員の学習指導から、ダブルアドバイザーによる生活指導、そして進路支援部による就職指導まで、各学生のキャリア形成過程のデータを一元管理し、学内共有するツールが提供される。同時に、このシステムに、学内のあらゆる情報へのポータルサイト的な役割をも担わせることによって、学生の利用に供する。

(4) 総合科目に「情報系」という系列を新設し、全学共通の必修科目「情報リテラシーI・II」を配置した。そして、無線LAN環境のコンピュータ教室において、モバイルPCを利用した情報リテラシー教育を展開している。また、LMSを利用した学習管理を進めるとともに、“e-ラーニング”の手法を取り入れることによって、学生の自宅における予習・復習を促進していく。また、「モバイル・コンピューティング」や「情報倫理とセキュリティ」などの科目をとおして、携帯端末としての軽量PCの利用法や、関連して起こりえるセキュリティの問題や情報倫理についての学習を推進していく。

以上のような ICT 環境の整備によって、

学生の爽り多い学生生活には、サイバースペース上に構築されたこの学内情報システムの利活用が不可欠となるような、徳山大学のキャンパス

を構築していこうと企画している。しかしこのようなシステムについては、いくら素晴らしいものができあがっても、それを利用する教員や職員の素養と、学生の姿勢が涵養されなければ、有効に機能しない。教職員の FD・SD 活動を、一層進めていく必要がある。学生にとっては、このシステムの有効な活用によって今まで以上の豊かな「学生生活」と「自己形成の場」が約束されるばかりでなく、将来のユビキタス社会に向けた柔軟な情報処理能力を身に付ける機会が与えられるものと考えている。

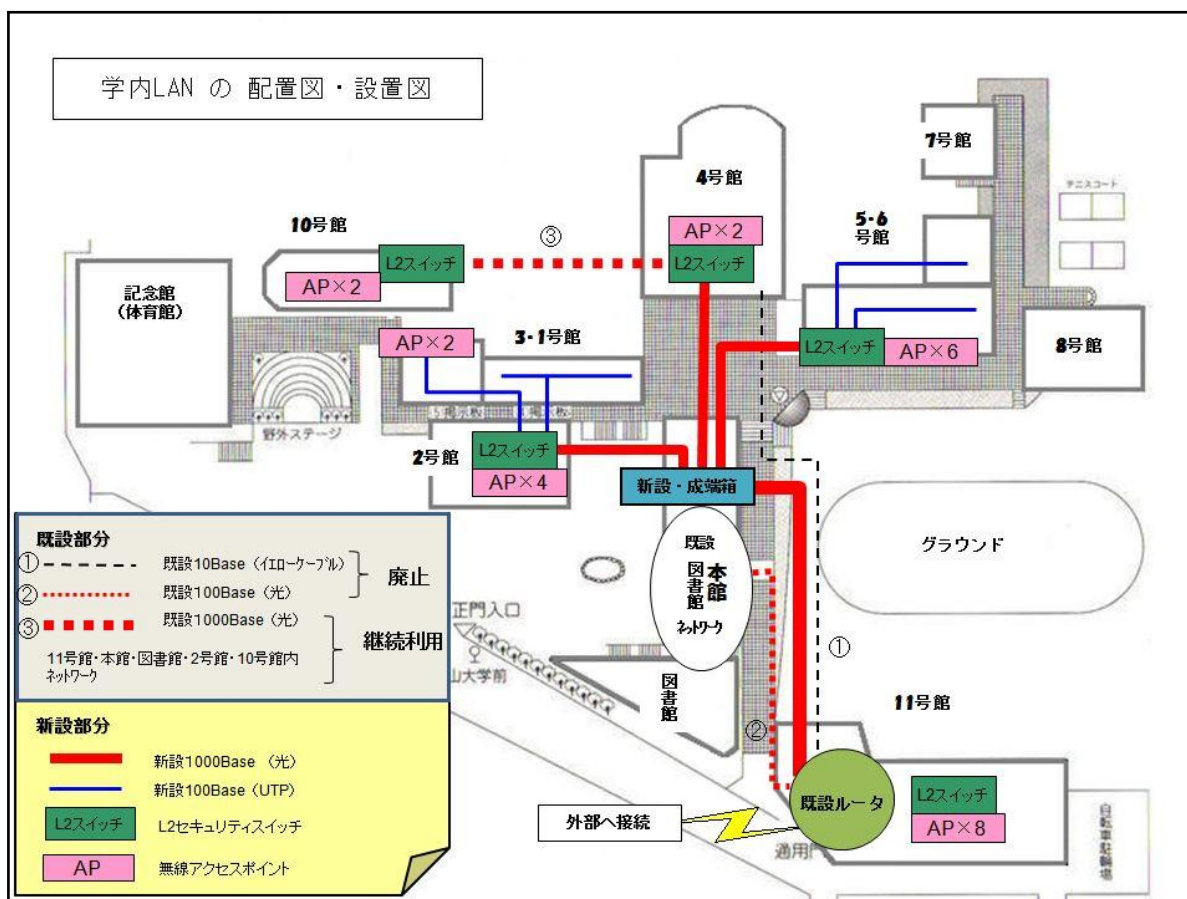


図 学内 LAN 配線図。 “AP” が無線 LAN のアクセスポイントで、現在総数 24 箇所。

## 4. 徳山大学の「地域連携活動」

**4-1 地域連携センター組織概要**：本学では、周南地域をはじめとする地域社会への貢献を目的とし、大学における教育・研究活動の一層の充実を図るため、平成 20(2008)年 8 月に「地域連携センター」を設置した。そして、徳山大学の地域連携プロジェクトの企画・立案・実施を担当し、学内外の連絡・調整を図る総合的窓口として機能している。

### 4-2 平成 20(2008)年度事業：

#### 1) 実施内容

##### ① 地域創発ワークショップの開催（全 7 回、延べ 103 名参加）

第 1 回 8/25 (月)	地域が育む人間力～EQ 教育の開発～ ※ EQ 教育は徳山大学の重点プログラムの一つです。	岡野啓介（経済学部長・教授）
第 2 回 9/17 (金)	地域の現状とまちづくり ※ 自治体や NPO 等の方、情報を交換しましょう。	河田正樹（経済学部准教授） 和田 崇（同講師）
第 3 回 10/3 (金)	スポーツでできる地域振興 ※ 徳山大学にはスポーツマネジメントコースがあります。	小川 剛（経済学部准教授）
第 4 回 10/17 (金)	地域特性を活かした福祉のあり方 ※ ところ変われば、福祉のあり方も変わる！	小林武生（福祉情報学部講師）
第 5 回 11/7 (金)	大学と企業の協生（「協生」＝「協力して生きる」という造語です） ※ 周南地域の経済が元気になるためには・・・	楨谷正人（経済学部准教授）
第 6 回 11/21 (金)	漫画・アニメによるプロモーション戦略の立て方 ※ 自治体や企業の方、一緒に考えてみませんか。	なかはらかぜ（経済学部特任教授）
第 7 回 12/5 (金)	売れる仕組みづくり～コンテンツ創発～ ※ 新しいビジネスの仕組みを考えてみませんか。	臼井 稔（経済学部特任教授）

##### ② 委託業務の実施（全 4 件、合計受託金額（税込）1,481 千円）

業務名	発注者	業務期間	金額(千円)
周南市まちづくり総合計画（後期基本計画）策定にかかる中山間地域ワークショップ業務	周南市	H20.10.29～H20.12.26	299
周南市まちづくり総合計画（後期基本計画）策定にかかる重点プロジェクト検討業務	周南市	H21.2.13～H21.3.19	499
子どもの相談分析及び FQA 作成支援業務	周南市	H21.2.13～H21.3.31	200
コンサルタント業務	(株)竹村電機	H20.11.1～H21.3.31	483

##### ③ 学生ボランティアの派遣（平成 20(2008)年 10 月、桜木小学校）

##### ④ ディベート学習会（平成 20(2008)年 11 月、広島経済大学と共催）

##### ⑤ 「2008 年度卒論概要集」の編集・印刷

#### 2) 自己評価

開設初年度となる平成 20(2008)年度は、「地域創発ワークショップ」を核として、本学と地域の連携・協力に向けた PR ときっかけづくりに取り組んだ。その結果、本学広報に一定の役割を果たすとともに、平成 21(2009)年度以降の具体的な活動を見据えたテーマや課題を抽出することができた。

**4-3 平成 21(2009)年度事業：**

1) 実施内容

①地域貢献研究促進費事業

山口県内の自治体や企業、NPO 等から地域課題等の解決に資する研究テーマを募集し、そのニーズに基づいた研究事業 4 件を実施。大学祭「ポプラ祭」に併せて中間報告会を開催し（平成 21(2009)年 11 月 8 日、約 30 名が参加）、研究の進捗状況を発表。

平成 22 年度『徳山大学総合研究所紀要』に研究成果を論文として掲載予定。

研究題目	担当者名
産業育成プランの作成（周南市大津島）	臼井 稔
周南市鹿野地区を対象とする福祉観光デザイン	杉光英俊・井手口範男
マクロ経済学的視点から見た地域の経済動向と地価変動	古谷京一
経験情報と専門情報の組合せによる地域アイデンティティの再発見 ー山口県周防大島の「島スクエア」を事例にー	和田 崇

②受託調査

業務名	発注者	業務期間	担当者
コンサルタント業務	T 社	H21.4～H21.6	臼井 稔

③卒論概要集の作成

本学学生が作成した卒業論文（卒業制作）の要旨をとりまとめた卒業論文集を作成・発行（1,000 部）。

④その他

- (i) 「ふるさと産業フェスタ in 周南」（平成 21(2009)年 9 月 11～12 日）への出展
- (ii) 「ふるさとを愛する人々の集い（柳井商工会議所）」（平成 21(2009)年 10 月 30 日）への出席
- (iii) 「デザインプラザ HOFU じばさんフェア' 09」（平成 21(2009)年 11 月 7 日）への出席
- (iv) 「西京シニア・スプリング・カレッジ」（平成 22(2010)年 3 月 5 日）の開催協力

2) 自己評価

平成 21(2009)年度は、地域連携に対する地域ニーズ・先進事例の調査、大学の知的資源を地域・社会に還元する取組み（地域貢献研究）を実施した結果、①地域連携等に関する学外での認識向上、②地域連携の具体化、③地域連携を通じた研究活性化への機運醸成、の 3 点が成果として得られた。本学の地域連携活動は、平成 19(2007)年度以前が「胎動」期、平成 20(2008)年度が「組織化」期、平成 21(2009)年度が「具体化」期と位置づけられ、今後は具体化してきた各活動の実効性を高めることが課題である。

なお、日経産業地域研究所が実施する全国大学の地域貢献度ランキング調査で、昨年度

の総合 273 位から総合 85 位にランクアップした点も特筆すべき成果といえる。

#### 4-4 平成 22(2010)年度事業計画：

##### 1) 活動方針

過去 2 か年度の事業を継続・深化させる方向で、本学の研究・教育の充実と地域活性化の双方に資する活動を推進することにより、地域にとっても、在学生にとっても、受験生にとっても、魅力ある大学となるように努める。また、日経産業地域研究所が実施する「大学地域貢献度ランキング」で総合 50 位以内をめざす。

##### 2) 活動テーマ

「ローカリズムの徹底＝ナショナルブランドの確立」への第 2 章

※ 地域をフィールドとした「学び」が充実した大学（教学との連携強化）

※ ローカルにあってグローバルが見える大学（研究との連携強化）

##### 3) 事業内容

###### ①地域貢献研究促進事業（継続）

山口県内の自治体や企業、NPO 等から地域課題等の解決に資する研究テーマを募集し、その提案に基づいた研究事業を実施する。研究担当となった教員は研究成果を中間発表会（大学祭に併せて実施）で報告するとともに、総合研究所が発行する『紀要』に発表する。

###### ②高大連携促進研究事業（新規）

山口県内の中学校および高等学校から、授業改善につながる授業研究テーマを募集し、その提案に基づき、本学教員が授業研究を実施する。成果は論文等にとりまとめ、当該中学校・高等学校をはじめ学内外に公開する。

###### ③周南まちづくりコンテスト開催事業（新規）

連携協定を締結する周南市および徳山高専の協力を得て、周南市におけるまちづくり活動の活発化に関わるアイデアを全国から公募し、優秀作品を選考・顕彰する。高校・高専部門と大学生部門、一般部門を設置する。優秀者に対しては、本学大学祭「ポプラ祭」にて表彰式を行うとともに、周南市内のエクスカージョン（現地見学）に招待する。

###### ④受託事業の実施（委託状況による）

学外の自治体や企業等からの要請に応じて、受託事業（調査・研究等）を実施する。

###### ⑤卒論概要集の作成・発行（継続）

卒業論文（卒業制作）の要旨をとりまとめた卒業論文概要集を作成・発行する。A4 判 50 頁程度とし、学生と教職員、受験生等向けに 1,000 部印刷する。